

個体数も生育の連続性も不安定な産地が大部分を占めている。

文 献

久米 修. 1987. 香川県におけるオニバスの生育状況
1. 水草研究会会報 27: 16~19.

〈文献リスト 1995—(3)〉

西本 孝・宮下和之・波田善夫, 1995. 岡山県自然保護センター湿生植物園の植生 1. 移植後 3 年目の植生. 岡山県自然保護センター研究報告 (3): 11-22.
西本 孝, 1995. 岡山県自然保護センター湿生植物園 2. 開所から 3 年目までの管理. 岡山県自然保護センター研究報告 (3): 57-64.
野口達也, 1995. 栃木県産種子植物の観察 (1) フロラ 栃木 (4): 14-20 [トリゲモ類の分類と分布を扱っている]
波田善夫・西本 孝・光本信治, 1995. 岡山県自然保護センター湿生植物園 1. 基盤地形の造成と植生移植の方法. 岡山県自然保護センター研究報告 (3): 41-56.

〈1996—(2)〉

相生啓子・小松輝久・盛田孝一, 1996. 岩手県・船越湾で発見された巨大海草—タチアマモ—について. 水産海洋研究 60: 7-10.
相生啓子, 1996. 藻場生態系—アマモ場を中心に— 遺伝 50 (7): 24-29.
大塚泰介・岩崎敬二・熊谷明生・小西民人, 1996. 琵琶湖南湖東岸における抽水植物帯面積の減少について. 陸水雑 57: 261-266.
大森雄治・相生啓子・盛田孝一, 1996. スゲアマモ (*Zostera caespitosa* Miki: アマモ科) の新産地. 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告 21: 32-37.
木下慶二, 1996. 河立湿地 (和歌山県太地町) の植生について. 南紀生物 38: 91-96.
木下慶二, 1996. イトタヌキモの和歌山県における新産地. 南紀生物 38: 96.

———. 1992. 香川県におけるオニバスの生育状況
2. 水草研究会会報 46: 23~28.
波田善夫. 1988. オニバスの復活. 水草研究会会報 33・34: 31~33.
大滝末男. 1982. 太古の謎をひめて花開くオニバス. アニマ 115 (9): 54~60.

住吉 正・佐藤陽一, 1996. 寒冷地におけるホタルイ類雑草の種子生産量に及ぼす播種時期, 遮光程度および落水処理の影響. 雑草研究 41: 225-233.
立川賢一・小松輝久・相生啓子・盛田孝一, 1996. 船越湾の吉里吉里地先における海草類の分布. 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告 21: 38-47.
外山雅寛, 1996. 気温の推移と寒地性タヌキモ類の開花との関係. 食虫植物研究会誌 47: 89-91.
藤井伸二, 1996. 琵琶湖で観察された水鳥による沈水植物の食害例. Nature Study 42: 129.
汪 光熙・草薙得一・伊藤一幸, 1996. ミズアオイとコナギの開花の日長反応特性. 雑草研究 41: 241-246.
汪 光熙・草薙得一・伊藤一幸, 1996. ミズアオイとコナギの種子の休眠, 発芽, 出芽特性の差異. 雑草研究 41: 247-254.
汪 光熙・草薙得一・伊藤一幸, 1996. ミズアオイとコナギにおけるアインザイムの変異. 雑草研究 41: 255-263.
Nakai, S., H. Hosomi, M. Okada and A. Murakami, 1996. Control of algal growth by macrophytes and macrophyte-extracted bioactive compounds. Wat. Sci. Tech. 34: 227-235.
Premasthira, Ch. and S. Zungsontiporn, 1996. Allelopathic effect of extract substances from gooseweed (*Sphenoclea zeylanica*) on rice seedlings. Weed Res., Japan 41: 79-83.

(次号につづく)